

平成30年度農作物有害動植物発生予察情報 特殊報第1号

平成31年 1月18日
山形県病害虫防除所

- 1 病害虫名 セイヨウナシハモグリダニ（仮称）*Eriophyes* sp.2
- 2 作物名 西洋なし
- 3 発生の経緯
 - (1) 平成30年5月に、庄内地域で西洋なし（品種：ラ・フランス）の葉に火ぶくれ症状が確認され、葉の内部にフシダニ科のダニが確認された（図1～5）。症状が確認された園地は、西洋なしと日本なしの混植園であったが、日本なしに症状は見られなかった。また、周辺園地（西洋なし、日本なし）での発生も見られなかった。
 - (2) 同年8月に、庄内地域の異なる地点で、西洋なし（品種：ラ・フランス）の葉に同様の火ぶくれ症状が確認され、葉の内部にフシダニ科のダニが確認された。症状の見られた樹は、日本なしに高接ぎした西洋なしであったが、日本なしの葉には症状は見られなかった。
 - (3) 火ぶくれ症状の葉を採取し、法政大学植物医科学センター上遠野富士夫氏、鍵和田聡氏に同定を依頼したところ、セイヨウナシハモグリダニ（*Eriophyes* sp.2）と同定された。国内では、これまで平成25年に北海道、平成29年に秋田県で発生が確認されている。本県では1960年代に、西洋なしを加害するハモグリダニの報告があるが、同一種であるかは不明である。
 - (4) なお、同一の火ぶくれ症状の葉からセイヨウナシハモグリダニと形態の異なるフシダニ科のダニが確認されたが、西洋なしに火ぶくれ症状を引き起こすかどうかは現段階では不明である。
 - (5) 病害虫防除所が行った調査では、内陸地域での発生は確認されておらず、庄内地域での一部園地での発生に限定されている。
- 4 形態
成虫は、体長が約0.2mmで、乳白色～淡褐色のうじ虫型。卵は球形半透明。
- 5 生態と被害
 - (1) 本種の生態は不明な点が多いが、火ぶくれ症状の内部に生息しており、葉裏の開口部から外に出て、新たに被害を及ぼすと推察される（図6）。
 - (2) 火ぶくれ症状は、葉表側と葉裏側にやや膨らむ。葉裏側にダニの出入り口が開口し、内部に本種が確認される。葉表側は被害が進むと黄色～茶褐色に変色し、葉裏側は緑色～暗褐色に変色する。なお、果実への被害については不明であるが、サビ症状を引き起こすとの報告がある。
 - (3) 火ぶくれ症状は、5月から7月にかけて新梢基部から先端葉に向かって拡大が見られ、寄生は11月上旬まで確認された。越冬トラップ調査（10月中旬から12月中旬まで西洋なしの枝にフェルトを巻きつけ、フェルト内の虫数を調査）では、枝に巻きつけたフェルト内に本虫が確認されたことから、粗皮下等で越冬する可能性が示唆された。
- 6 防除対策
 - (1) 西洋なしにおける本種に適用のある農薬はない。
 - (2) 本種の被害拡大を防ぐため、発生園地では穂木等の譲渡は行わない。
 - (3) 火ぶくれ症状のある葉は、見つけしだい摘み取り適切に処分する。
 - (4) 発芽前に石灰硫黄合剤を散布する。



図1 ほ場での被害状況（葉表）



図2 ほ場での被害状況（葉裏）



図3 火ぶくれ症状（葉表）



図4 火ぶくれ症状（葉裏）



図5 火ぶくれ内部のセイヨウナシ
ハモグリダニ



図6 葉裏の開口部

山形県病害虫防除所

本 所 tel 023-644-4241 fax 023-644-4746

庄内支所 tel 0235-78-3115 fax 0235-64-2382

山形県病害虫防除所トップページ

<http://agrin.jp/menu/t/790/>

病害虫発生予察情報

<http://agrin.jp/menu/t/563/>